



HIV／エイズ 拡大をとめるために

佐久総合病院 総合診療科勤務 高山 義浩 医師

1970年福岡県生まれ 東京大学医学部保健学科を卒業後、フリーライターとして世界の貧困と紛争をテーマに43ヶ国で取材を重ねる 2002年医師免許取得(山口大学) 国立病院九州医療センター、九州大学病院を経て、佐久総合病院でエイズを含む感染症診療に従事 現在は厚生労働省結核感染症課新型インフルエンザ対策推進室にて、危機管理をテーマに医療体制の構築について活動 群馬大学医学部、山口大学医学部講師も務める 著書として『アジアスケッチ ～目撃される文明・宗教・民族』(白馬社)、『国際保健医療のお仕事』(共著・南山堂)、『ホワイトボックス ～病院医療の現場から』(産経新聞出版)がある

エイズとはHIVという名前のウイルスによる感染症です。感染してから長い潜伏期があるのが特徴で、まったく症状がないものの、感染力のある状態が長い人では10年近く続きます。潜伏期間を過ぎると前触れのない症状がみられるようになり、やがて全身が徐々に消耗してゆき、重い感染症の症状が出現します。この状態をエイズといいます。

実は、長野県は全国でみると比較的エイズの多い地域だと言えます。人口比でみると大都市を抱える東京、大阪に次いで長野県が3番目に流行しているとの統計もあります。ところで、長野県の流行は、都市部とは違う形態で感染が広がっていると考えられています。

東京などの都市部の感染拡大は、男性同士の性的接触により広がっている要素が大きいです(男性同性愛者の方は出会いの多い都市部に住む傾向があるため)。しかし、長野県の患者さんの多くが異性間の性的接触により感染しています。つまり、佐久平のような農村地域でもエイズの流行が広がってゆくことを意味しています。佐久総合病院でもこれまで100名近くの感染者を診療してきました。

エイズは若者の病気に受け止められがちですが、佐久平において感染の中心にいるのは中高年の方々です。実際、佐久総合病院に通院中の患者さんの平均年齢は、男性で51歳、女性で41歳です。こうした佐久平における中高年への感染拡大を防止するため、この場をかりて2つのことを皆さんにお願いしたいと思います。

自主的に検査を受けましょう

感染力はあるものの、症状のない期間が長いのがHIV感染症の特徴です。この間にパートナーに感染させてしまうケースが多いようです。症状がないので自主的に検査を受けていただくしか診断する方法はありません。冷静に考えれば、感染している可能性に気がつく人は多いと思います。つまり、コンドームを使用せずに、あるいは正しく使用せずに

セックスをしたことがあるなら、皆さん感染している可能性があると考えてください。

エイズの相談・検査は、無料・匿名で受けられます

- HIV抗体検査は、一週間後に結果をお伝えする「通常検査」とその日のうちに結果がわかる「迅速検査」があります。
- HIV検査は、感染の心配のあった日から約3ヶ月以降に受けましょう。

【佐久平でHIV検査が受けられる場所】

■佐久保健所 佐久市跡部65-1 佐久合同庁舎1階 TEL0267-63-3164

通常検査	土・日・祝日を除く 8:30~17:15	
迅速検査	毎週木曜日 9:00~11:00 毎月第1火曜日 17:00~18:00	予約制

■佐久保健所小諸支所 小諸市甲上野岸3354-6 TEL0267-25-5873

通常検査	毎週水曜日 9:00~16:00	予約制
------	------------------	-----

■佐久総合病院 佐久市臼田197 TEL0267-82-3131

迅速検査	毎週月から金曜日 9:00~16:00	
------	---------------------	--

正しい知識で差別のない社会

HIVを必要以上に恐れないでください。HIVは精液、膣分泌液、そして母乳、血液などの体液に含まれており、これらが他人の体内に取り込まれることで感染するのです。感染者の汗や唾液には、ごく微量含まれている可能性はありますが、よほど大量でない限り感染力はありません。また、ウイルスは空

気や熱、乾燥に極めて弱いので、新鮮ではない体液のシミなどから感染することはありません。こう考えると、日常生活ではセックス以外の場面で感染することはなさそうです。キスや一般的

なスポーツでは感染しません。もちろんお風呂も大丈夫です。また、ひと昔前までエイズは「入院する病

気、死ぬ病気」だったものが、いまは治療法の開発により外来で治療する慢性疾患になっています。私たちはエイズを拡大させない努力と同時に、エイズのある社会、HIVと共に生きる人たちを受け入れる社会づくりをはじめなければなりません。実はこうした社会を作ることもまた、躊躇している人が検査を受けやすくなる要素だとも言われています。つまり、エイズに対する理解の広がりが、感染拡大防止にも役立つということです。